

渡壁委員（民主県政会）

平成 27 年 3 月 6 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）若者の定着に向けた郷土愛を育む教育について

高校生を対象に、歴史文化や産業など、地域に根ざした学習に取り組むことが非常に有効だと思うが、教育長の所見を伺う。

（答）

人口が減少する中で、地域が活性化するためには、若者世代が地域への愛着を深め、地域に定着し、郷土に貢献する人材として育つことが必要であると認識しております。

こうしたことから、中学校では、歴史教材「郷土ひろしまの歴史」などを活用して、地域について調べる学習を行っているところであり、また、高等学校におきましては、「郷土ひろしまの歴史」の英語版を作成し、その教材を基に、海外の人たちに郷土の素晴らしさを発信する学習活動を進めているところでございます。

これまで、各学校が実践してきた取組といたしまして、例えば、油木高等学校では、休耕田を活用したナマズの養殖やミツバチの飼育など、地域の活性化を図るプロジェクトに取り組む中で、地域とのつながりを持ちながら、自らの創造力や行動力で、地域の次代を切り拓いていく実践力を身に付ける活動を行っております。

また、吉田高等学校では、神楽部が地元の協力を得て、「高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田」に参加するなどの地域の伝統芸能の保存継承に寄与する活動を行っているところでございます。

さらに、来年度からは、高校生が地域の活性化に向け、地域資源を活用した特産物の開発や、地域を盛り上げるボランティア活動などの研究・開発などの取組を行う「高校生による中山間地域わくわく事業」を実施することとしており、地域の諸課題などを題材に解決策を考え、アクションを起こす教育活動などを進めることによりまして、地域の成長・発展を支える人材の育成を図ってまいりたいと考えております。